

川添校区 歴史マップ

山は名高き九六位山 清く流れる大野川 ふれあいの街 川添

川添の歴史的背景

川添校区は、阿蘇入横穴古墳群や、1400年の歴史を持つ九六位山円通寺などがあり、古くから生活の舞台でした。

江戸時代、宮河内・広内は白杵藩領に、種具・迫は熊本藩領に属していました。

明治22年4月1日に、一つにまとまった川添村が誕生しました。

川添校区は、西は清流大野川に接し、東は緑豊かな九六位山系の山々を擁しており、自然に恵まれた歴史と文化の香る街です。

三つのコースで歴史散策のひとつをお楽しみください。



俳人 山頭火

はしんさんとうか
昭和四年十二月九日、山頭火が九六位山通寺を訪れています。参拝を終えた山頭火は、白杵へと向かいました。

しるるや
しるるや
歩み入る

(草木塔)

大分流通業務団地

金谷校

開校 明治7年1月7日
校名 公立 金谷校
大正5年～昭和33年3月まで使用しました。
跡地は川添児童館とし、その後廃校となりました。

広内校

開校 明治8年2月15日
校名 公立 広内校
写真の校舎は大正4年に建築しました。
跡地は広内公民館として使用しています。

川添の伝説

九六位山の龍神伝説
ヒダル神峠
日向洲の地名伝説
用明天皇伝説
おんばらい
百合若大臣伝説

- #### 歴史散策コース A
- 大野川に沿って 川添公民館から宮谷
1. 白杵藩宮河内代官所跡
 2. 金谷の渡し跡
 3. 大水害水位標
 4. 金光明最勝王経石書塔
 5. 阿蘇入横穴古墳群
 6. 金鉾山跡
 7. 阿蘇神社
 8. 石灰石焼成窯跡
 9. 水神の塔
 10. 舟場の渡し跡
 11. 洪水対策の石垣
 12. 宮河内農業改善事業
 13. 伝、加藤清正公護岸工事跡

- #### 歴史散策コース B
- 心を癒す山岳地帯へ 川添公民館から広内
14. 赤迫池 朱(硫化水銀)
 15. 水車小屋跡
 16. 火伏地藏
 17. 御殿様御宿
 18. 山神社
 19. 本城山
 20. 経塚遺跡
 21. 九六位山円通寺
 22. 九六位山キャンプ場
 23. 戸塚山遺跡

- #### 歴史散策コース C
- 大野川に沿って 川添公民館から迫
24. 五輪塔群
 25. 殿様道路
 26. 百堂の渡し跡(旧)
 27. 百堂の渡し跡(新)
 28. 平野神社
 29. 神明社・珪化木
 30. 白嵩神社
 31. 迫雨水排水ポンプ場
 32. 川添校区なのはなクラブグラウンド

黒木学校跡

所在地 大字宮河内 浄土寺

明治36年代官所の校舎売却のため、浄土寺黒木氏宅を仮校舎に於て、大正5年12月までの招致年間この地で教育が行われた。(通称 敷学校)

大野川

豊かな文化と自然を育み、生活、産業を支える大野川
幹川流路延長 107km
流域面積 1,465km²
昭和12年当時までは乙津川と分かれて流れていました。昭和4年堤防築堤、河道の掘削など本格的な工事に着手、昭和37年乙津川分流堰建設によって現在の大野川となりました。

赤いマスの一辺は1kmです
500m 1km

- #### 凡例
- バス停名
 - 駐車場
 - 郵便局
 - 駐在所
 - 学校
 - 神社
 - 寺院
 - ガソリンスタンド
 - 病院

お問い合わせは
大分市鶴崎支所 ☎ 097-527-2111
川添公民館 ☎ 097-529-2388

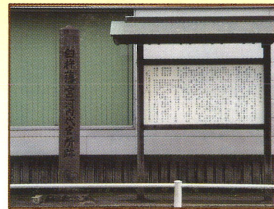
川添校区 歴史マップ

山は名高き九六位山 清く流れる大野川 ふれあいの街 川添

Aコース (川添公民館—宮谷方面)

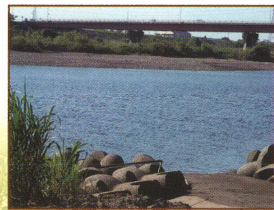
1. 白杵藩宮河内代官所跡

天保11年(1840)白杵藩が民政の安定と徴税のために設置しました。川添公民館南側の大野川より立派な石垣や石段がのこっています。



2. 金谷の渡し跡

大正14年(1925)「金谷渡し」が県費による「公用渡し」となりました。以来昭和32年3月川添橋が開通するまでの33年間「県営渡し」として地域住民の貴重な足でした。



3. 大水害水位標

昭和18年(1943)9月17日からの雨は集中豪雨となって3日3晩降り続き、20日の夜明、堤防が決壊し、大きな被害がでました。この水害を教訓に、金谷天満社境内に水位標を設置しました。



4. 金光明最勝王経石書塔

享保6年(1731)西日本一帯は旱魃とウンカが発生し、米が凶作となり、餓死者がでました。二度と発生しないように浄土寺に「金光明最勝王経石書塔」を建てました。



※金光明最勝王経 四天王をはじめ諸天善神による国家鎮護の教説を含んだ経典

5. 阿蘇入横穴古墳群

この古墳群は西暦三百年頃のもので、阿蘇社(元宮)の南側一帯に横穴古墳を多く見ることができます。中から、金環、銅環、曲玉、環玉、刀剣が出土しました。これらの出土品は大分歴史資料館に保存展示されています。



6. 金鉢山跡

杵河内のおく池ノ谷、柚ノ木谷、広内の一ツ橋谷では昭和15年頃まで金の採掘が行われていました。川添小学校にも縦穴坑と、大野川側より横穴坑があったといわれています。



7. 阿蘇神社

大分市大字宮河内火振に鎮座。宮河内地区の氏神で通称「一の宮」と呼ばれています。祭神は健甕龍魂ほか三柱となっています。由緒によれば、「大友十代親世公のとき、富高因幡守藤原光貞公が海部郡丹生庄火振へ居住のころ、阿蘇大神を背負い奉りきて、一の宮を当社に鎮座す」とあります。



8. 石灰石焼成窯跡

一次操業は明治初期から昭和初期、二次操業は昭和10年頃から13年頃、三次操業は昭和15年頃より昭和26年頃、四次操業は昭和28年頃より昭和30年頃までという。大正初期の生産量は45トンで2,645円と記されています。現在も大型の窯跡を見ることができます。



9. 水神の塔

天保元年(江戸後期)(1830)の建立。祭神は岡家女命です。宮河内地区は大野川の沖積地帯で、古来から大洪水や川の流れがかわるなどの被害にたびたび遭っていました。私たちの先祖は、水神を祭り、水害から田畑や家畜を守り、旱魃には雨の恵みを受けるように五穀豊穡と生活安寧を祈願してきました。



10. 舟場の渡し跡

杵河内、毛井間にあった渡しで天保年間(1830～1844)の古地図に記載されています。昭和45年頃まで、毛井、宮河内両地区による共同渡しがありました。



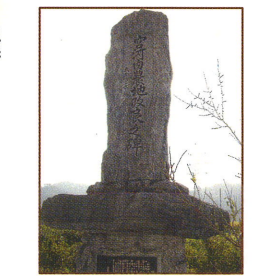
11. 洪水対策の石垣

新田地区では「うすら積み」といわれる高い石垣を築き、その上に家や蔵がつくられており、大野川の洪水から、生命と財産を守るための人々の知恵と工夫が見られます。平成18年には、堤防の決壊防止のため堤防の厚みを増す補強工事が行われました。



12. 宮河内農業改善事業

昭和44年、農業改善整備事業が行われました。事業費7千万円で、にら等の栽培がさかんです。特に、新田ごぼうは農林省登録第12号として登録されています。



13. 伝、加藤清正公護岸工事跡

歴史的な資料はありませんが、地元では加藤清正公が四国の青石を使って作ったものと伝えられています。大潮の干潮時に出現する、往時をしのぶ不思議物語です。



場所 大野川金谷水門200m上流
材質 緑泥結晶片岩

Bコース (川添公民館—広内—九六位山方面)

14. 赤迫池 朱(硫化水銀)

千三百年前文武2年(698)豊後から朝廷に朱を献上しました。朱の原石は丹生神社(佐野)に祀られています。高速道路を通すため池の中を深くほり下げたときに橋脚のまわりが朱に染まっていた。(平成13年12月 高速道路開通)



15. 水車小屋跡

広内地区の西の谷では幕末から昭和初期まで15軒の水車小屋がありました。九六位山のふところから湧きでる清流で水車をまわし精米、製粉をしていました。



16. 火伏地蔵

約150年前安政4年(1857)専想寺に村中の人がお参りしていたとき火災が起き3軒しか残りませんでした。そこで「たとえ3軒になろうとも地蔵まつりをし、供養踊りは絶やさないうら村を火災から守りたまえ」とご願を掛け、以来毎年8月24日の「地蔵盆」には供養踊りを行っています。



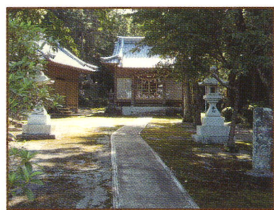
17. 御殿様御宿

広内は白杵藩に所属し、白杵城主稲葉の殿様は狩が好きで良く広内に宿泊していました。現在はこの地方で産出する緑泥結晶片岩のおもむきのある石垣がのこり、その面影をとどめています。広内には一の宿、二の宿、三の宿跡があります。それぞれに幕府巡見使も宿泊しています。



18. 山神社

大山祇命 山を守護する神
大歳命 五穀豊穡の神
江戸時代末期まで広内では、大山祇命と、大歳命をそれぞれ社に祀っていました。弘化二年(1845)に両社を合祀し山神社としました。



19. 本城山

戦国大名、大友宗麟は北九州一帯を制覇し、薩摩の島津に戦いを挑んだが大敗しました。島津軍の侵襲に備え各地に山城が築かれました。川添にも九六位峠の横に大友軍の城跡があります。城山、四方城、城の平、陣小屋、と地名がのこっています。



20. 経塚遺跡

九六位山駐車場東側に小高い丘があります。そこが経塚です。昔は経塚の上に鐘つき堂があったとか。この下の淵に住む龍は日夜響く鐘の音に悲鳴をあげ、うるさいと云って落ちてしまいました。(鐘ヶ淵に住む龍神伝説)。ここから出土した経貝は大分歴史資料館に保存展示されています。



21. 九六位山円通寺

591年 百濟の修業僧日羅上人が「千手観音」を安置して、「九鹿猪山園通寺」を建てたといわれています。山岳仏教の霊場として天台宗に属し、また雨乞いや乳貰いなどで地域の人々と深いつながりをもってきました。



22. 九六位山キャンプ場

キャンプ場は標高452mにあります。夏の気温は4度ほどひくくキャンプ生活は快適です。夜はカジカと星空が迎えてくれますし、展望台からの夜景も最高です。



23. 戸塚山遺跡

戸塚山は広内と丹生の境界にあり伐株状の山で四方の眺望も良く、弥生時代の要塞上の根拠地として見張り処としても最適の高地性集落だったようです。弥生時代の後期の土器が出土しています。



Cコース (川添公民館—種具—迫方面)

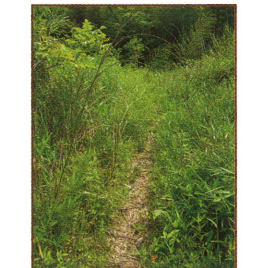
24. 五輪塔群

明徳2年(1393)南北朝末期の年号が刻まれているものがあります。以前は百堂の中西義彦さん宅の近くに、六体あったものを今の場所に移したものです。



25. 殿様道路

大友宗麟も歩いたであろうこの道。府内と臼杵を結ぶ往年の主要道路で、殿様道路とも呼ばれています。坂を上り着いたところには、旧茶店の建物や、道しるべ、高田手永の代官兼惣庄屋が、天明元年(1781)に建てた供養塔があります。



26. 百堂の渡し跡(旧)

(下徳丸—百堂—辻山茶店) 殿様道路を下ったところに、対岸の高田の下徳丸への渡し場がありました。



27. 百堂の渡し跡(新) (関門—百堂)

高田の関門三叉路から東へ進むと大野川にでます。百堂の三叉路の反対側に、狭い道が大野川にのっています。



28. 平野神社

大分市大字種具字勝ヶ平に鎮座し、祭神は今木神・染織、手芸、衣の神久度神・轟、台所、食事の神古間神・焔火の神比咩神、大物主命であります。種具に種具紀伊入道宗雲が勧請し神職平野若狭守藤原勝平が祀りました。乾元元年(1302)十一月二十日創立、葛根塚とも称します。



29. 神明社・珪化木

大木が土砂に埋まり堆積した中で何万年もたつと、このような鉱物に変化していきます。大野川一帯の三角州には地下深く木の化石物が埋まっています。



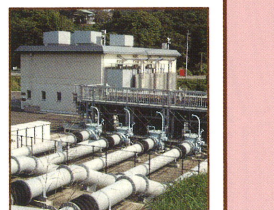
30. 白嵩神社

大分市大字迫字新殿に鎮座。創建は平安時代、弘仁5年(814)8月1日、祭神は百合若大臣です。天正14年(1586)に島津軍は鶴崎城の攻撃侵襲の際にここを本陣としました。



31. 迫雨水排水ポンプ場

台風で大野川が増水すると、川からの逆流を防ぐため水門を開めます。すると堤防内に降った雨で低いところは床上浸水になり、大きな被害がでていました。当ポンプ場は平成15年度に完成。浸水家屋はなくなり安心した生活が送れるようになりました。



排水能力 大野川に毎秒5トン

32. 川添校区なのはなクラブグラウンド

総合型地域スポーツクラブ「川添なのはなクラブ」は平成19年3月31日に結成されました。グラウンドの必要性から大野川の河川敷を住民の手で整備しました。未来に向けて子どもたちの夢が咲き誇るでしょう。

